2．循環器内科専門医から診る 糖尿病合併動脈硬化の病態と診療 積極的脂質管理の意義

The clinical significance of intensive lipid-lowering therapy in patients with diabetes mellitus

設樂 準 Jun Shitara・宮内 克己* Katsumi Miyauchi

順天堂大学医学部循環器内科学講座／先任准教授*

Summary

糖尿病患者の冠動脈疾患危険因子として最も重要であるのが高低比重リポ蛋白コレステロール(LDL-C)血症であり，より積極的な脂質管理が必要である。これまでの臨床研究から一次予防・二次予防ともに多くのエビデンスが構築され，より早期からのスタチンを用いた積極的LDL-C低下療法の重要性は疑う余地がない。糖尿病患者に対しては，ほぼ全例にスタチンの投与が推奨されるようになった。しかし，LDL-Cをどこまで低下させるかについてのエビデンスは十分ではない。そのなかで，PCSK9阻害薬という強力なLDL-C低下作用をもつ新薬が登場し，世界的にも糖尿病合併虚血性心疾患に対するこれまでにないLDL-C低下の有効性に関するエビデンスが期待されている。

Key words

●糖尿病
●高LDL-C血症
●虚血性心疾患
●スタチン
●PCSK9

はじめに

わが国の糖尿病患者は年々増加傾向にあり，厚生労働省の「平成24年国民健康・栄養調査」によると約950万人に達し，虚血性心疾患の危険因子であることは多くの疫学研究から明らかである。また，糖尿病患者の予後が不良であることはFinnish研究で皆の知るところとなった。さらに，糖尿病患者の冠動脈疾患発症の危険因子も解析され，低比重リポ蛋白コレステロール(low-density lipoprotein cholesterol；LDL-C)が最も強い因子であることがUKPDS(United Kingdom Prospective Diabetes Study)[1]やわが国のJDCS(Japan Diabetes Complications Study)[2]で報告されている。つまり，糖尿病患者の予後にLDL-Cが関与し，高ければイベントが増加することが示された。次の臨床的課題は，高ければ予後不良となるLDL-Cを介入で下げればイベントを抑制できるかということになる。現在まで糖尿病患者だけを対象にLDL-C低下を介入とした二次予防の大規模臨床試験はないが，これまでの臨床試験の層別解析では糖尿病患者においてもLDL-C低下の臨床的利益は高いと報告されている。次に，どこまでLDL-Cを下げるかについては，現在までのエ

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.